

2023~2024年度
クラブテーマ

「思いやりのバトンリレー ~恩送り~」

◆第2620地区ガバナー 中村 皇積 (浜松ハーモニーRC)

◆山梨第3グループガバナー補佐 清水 健雄 (北杜)

◆会 長 吉原 知仙

◆副会長 塩澤 雅人 西野 直樹

◆幹 事 丹沢 浩己



2023~2024年度 RI会長 ゴードン R. マッキナリー
(スコットランド、サウスクイーンズフェリーRC)

■毎週火曜日 12:30~13:30 ■シャトレゼホテル談露館 TEL055-237-1331 ■事務局 TEL055-237-5475

「四つのテスト」言行はこれに照らしてから ①真実かどうか ②みんなに公平か ③好意と友情を深めるか ④みんなのためになるかどうか

例会プログラム (2024/5/7)

雑誌紹介 小野元嗣会員
ガバナー補佐訪問 清水健雄ガバナー補佐

例会予告

5月第2週 5月14日 (火)
甲府市歴史文化財課 佐々木満様

出席報告

【会員数 75名】
【4/23会場出席率 42/68 61.76%】
【4/9修正出席率 休会のため、なし】
《Web例会出席者》9名
伊藤、小林 (育)、五味、重岡、志知、四宮、
花輪、藤巻、望月 (瑠)
【4/23例会出席率 51/68 75.00%】

出席免除会員

氏原、臼井 (和)、大木、河阪、小林 (成)、
長坂、根津、原田、小玉、中込 (豊)、
米山 (忠)

免除会員出席者

【4名】氏原、臼井 (和)、長坂、原田

欠席者

【26名】浅川、石川、石橋、伊藤、グエン、
小泉、河内、小林 (彰)、小林 (育)、
五味、重岡、志知、四宮、萩原、
花輪、福田、藤原、藤巻、古屋、
穂坂、松村、丸山、三浦、望月 (瑠)、
米山 (浩)、ラシタ

メイクアップ

青少年交換プログラム長期派遣候補学生募集
説明会 (4/20) 吉原、望月 (瑠)、横内
RLIパートII (4/21) 塩澤、立川、福田、
望月 (瑠)、渡辺 (郁)
笛吹RC創立60周年 (4/21) 井上 (雅雄)、
吉原、丹沢
女性会員未来designセミナー (4/22)
望月 (瑠)、渡辺 (郁)
甲斐RC (4/22) 大木

ビジター

なし

ゲスト

社会福祉法人 山梨櫻の会
児童養護施設あいむ施設長 小名木建棟
社会福祉法人 葛葉学園
児童養護施設くずのはの森施設長 佐藤昇吾様
米山奨学生 徐 超さん

例会記録

第3103回 (2024/4/23)

会長挨拶

吉原 知仙 会長



本日は京都から直行して会場に参りました。この4月というのは浄土宗では各本山が御忌という法然上人の命日を今やお祝いとして?大法要を行う期間です。私も東京芝増上寺から始まり、知恩院、清浄華院という本山の法要にほぼ毎週出仕して参りました。

皆さま、お寺で五色の旗や幕をご覧になったことはありませんか?直接ご覧にならなくてもニュース等で目にしたことが有るかもしれません。

「緑(青)・黄・赤・白・紫(黒)」色の配置は宗派により微妙に違いますがこの5色の旗や幕です。

色には意味があり、古代中国陰陽五行説とも深い関わりがあると共に儒教、仏教、道教そして神道でも多く取り入れられている風習の1つと言えるでしょう。その色の意味合いとして、仏教の場合は一般的にお釈迦様の身体や教えを表しているようで

青…仏陀の髪の毛の色 心乱れず力強く生き抜く力「定根(じょうこん)」
黄…仏陀の身体 豊かな姿で確固とした揺るぎない性質「金剛(こんごう)」

赤…血 大いなる慈悲の心で人々を救済することが止まることのない働き「精進(しょうじん)」

白…歯 清純な心で煩惱や苦しみを清める「清浄(しょうじょう)」

黒…袈裟 あらゆる侮辱や迫害などによく堪え怒らぬ「忍辱(にんにく)」だとか。

宗教的な場所だけではなく、大相撲の土俵にも四隅に青、赤、白、黒の房が下がっていますよね。5つ目の黄色は土俵にあたるそうです。鯉のぼりの吹き流しにも魔除けの意味合いで、また七夕の五色の短冊もそれぞれの色に意味があるそうです。

五色は仏教の教えも表しますが神聖な場所、魔除け等色々な意味合いがあるのですね。

さて、本日は今年度実施した買い物体験事業に関連して、児童養護施設のお二方の施設長にお越し頂きました。現場の生の声を聴く事が出来る貴重な機会です。しっかりと拝聴致しましょう。

五色の旗▶



■幹事報告

1. 4/20 (土) 2025-2026年度ロータリー青少年交換プログラム長期派遣候補学生募集説明会が静岡商工会議所にて行われました。次期吉原地区委員、望月瑠華次期会長、横内次期幹事が参加しています。
2. 4/21 (日) RLIパートIIがZOOMにて開催されました。塩澤会員、立川FT、福田FT、望月瑠華FT、渡辺郁FTが参加しております。
3. 4/22 (月) 女性会員未来designセミナー2024が静岡市グランディエールブケトーカイにて行われました。望月瑠華会員、渡辺郁会員が参加しております。

■例会変更

- 甲府シティRC：5/1 (水)、22 (水) 休会
5/29 (水) 特別休会
- 甲府西RC：5/16 (木) 創立50周年記念例会・式典開催のため5/19 (日)に変更、13:15~シャトレゼホテル談露館にて5/30 (木) 特別休会

スピーチ

* 児童養護施設あいむのあゆみ

～開設10年とこれから～

児童養護施設あいむ

施設長 小名木 健様

高齢者福祉事業を中心に展開してきた社会福祉法人山梨檜の会は、理事長臼井行夫・専務理事臼井栄二の卓越したリーダー



シップのもとビジョンが明確化され、「人と人、人と社会のつながり」をキーワードに地域コミュニティで生活する人々がより良い人生を過ごせるためのシステムを構築し、社会全体の幸福に寄与していこうとする“総合的人生支援。”という理念を掲げ、様々なライフステージにおいて必要な支援が提供出来ることを目指しています。

設計段階（山形一級建築士事務所にて設計）から児童の安心安全や楽しさを意識し、地域のランドマークとなる独創的な空間を創出し2013年に児童養護施設あいむは開設しました。東西の門から気軽に通り抜けできたり、友人が気軽に遊びに来れる環境作りを行い、生活主体である児童と職員とが「共に学び、共に遊ぶ」ことを意識して、オリジナリティある運営を行っています。児童の将来にとって有益となる取り組みとして受験対策にもなる「公文式」の学習に取り組み、進学校への入学を果たす子を輩出するなど、一人ひとりの人生の選択肢増と個性を伸ばすことの大切さを意識しています。

生活する児童の多くは不安定な家庭環境で育つなか

で何らかの虐待を受けており、心に大きい傷を負っています。そういった子は人付き合いが苦手だったり、刹那的で自暴自棄だったり、アニメやゲームに著しく依存していたり…肯定され大切な存在として尊重されるべき子どもが、複雑で不安定な家庭環境で虐げられると、「どうせ僕なんか」「私なんか何をやっても」と自尊心・自己肯定感が欠如してしまいがちです。そのような子どもたちの多くは多感な思春期を迎えていますが、各々が素晴らしいポテンシャルも持ち合わせているため、日々大いに褒め育てる努力を行っています。

法人としての取り組みにおいては、多くの子育て世代の皆様との交流のなかで発達課題を抱える世帯の多さに注目し、2017年には早期からの療育場所として「児童発達支援センターかしのみ学園」を※児童発達支援センター（全国に約800施設）、2019年には親を頼れず生きづらさを抱え行き場のない青少年のための施設「自立援助ホームMIRAI」を※自立援助ホーム（全国に約300施設・山梨県内は1施設のみ）、施設出身者の多くが計画的な金銭管理に失敗し生活破綻したり、精神的な脆さから孤独を抱えがちである現状を憂慮し「退所者自立サポート事業（山梨県事業）」を2020年に受託、2023年には何らかの障害を持っていても自分らしい人生を歩んでもらうために「グループホームLIFE」を、それぞれ児童養護施設あいむに程近い場所に開設し、数多くの各種学校や施設が点在する甲府市下飯田に“総合的人生支援。”を具現化しています。

子どもの成長にとって、様々な人生の糧となる経験と寄り添う大人がいかに大切かを実感する日々です。困難を抱えがちな子どもたちへの支援を今後ともよろしくお願い致します。

* 児童養護施設くずはの森

施設長 佐藤 昇吾様

私は、大月市にあります社会福祉法人葛葉学園 児童養護施設くずはの森施設長の佐藤です。昨年11月には、甲府南ロータリークラブの会員の皆様からのご支援により、「自分で買い物体験事業」に参加させていただきました。子ども達に貴重な経験をご提供いただいたこと、改めて感謝申し上げます。



社会福祉法人葛葉学園は、児童養護施設くずはの森（定員20名）地域小規模児童養護施設すず木（定員6名）と、地域の子育て支援を目的とした子ども家庭支援センター花みずきの運営を行っています。

法人の歴史は昭和18年に遡り、戦災孤児の受け入れを目的としたものでしたが、現在は児童虐待を受けた子どもの受け入れが大半であり、家庭分離された子ども達が家庭に代わる「家」として、当施設を生活拠点に

地域の学校に通っています。

子ども達は家庭分離がされる課程の中で、両親に愛情いっぱい大切に育ててもらいたかったのにそれが叶わなかった気持ちや、他の兄弟は変わらず家族と一緒に過ごしているのに、自分だけが施設に来ることになってしまった現実を、本来はその問題を家庭で抱えきれなかった事が原因であっても、子どもは「自分が言う事を聞かなかったから」「自分は不要な存在だから。」と、自身にその理由を感じてしまう事も多くあり、結果として自己肯定観・自己評価の低さ、大人への不信感や自己の展望の低さを備えてしまうことも多くあります。

実際に私が担当をした子どもの事例として、次のようなことがありました。

離婚した母と母方祖父のもとで養育された男の子。小さい頃から多動傾向、落ち着きのなさ(彼DHD)があり、母や祖父は言う事を聞かせる為に強い叱責、暴力など虐待行為を重ねてきた。虐待環境下であり、保護者も子育てに困り感を強め、情緒障害児短期治療施設(長野県)で服薬をしながら2年間の治療を終え、施設での集団生活への適応ができる見通しのもと小学校3年生から当施設で生活をスタートしました。

高校生から小学生までが一緒に生活する子ども集団の中でも当時年少児の彼の落ち着きのなさは変わらず、ふざけて3階の手すりから身を乗り出す危険行為、高齢児に物怖じすることもなく自己中心的な言動や、他者を挑発するような言動と一緒に過ごす高齢児のストレスともなり、子ども間での暴力の引き金ともなる。施設内でも子ども間暴力が起こるようになり、その子は施設内で受けた暴力を、年少児に繰り返すことも受け継いでしまう。

学校生活では、授業中に立ち歩く、1人大きな声を出す、気に食わない事があれば同級生へ「ぶっ飛ばすぞ」などの暴言、外では友達に砂を投げつけるなどの行為が多くあり、保護者から「うちの子どもが彼君に何をされるか心配。学校に来させないで欲しい」と苦情がありました。

友達はもちろんだが、彼の教育を受ける環境を守るため登校から下校までの付き添いを続ける時期もあった。

彼の言動の背景には、家庭生活の中で養育が大きな影響を与えており、「思い通りにならない、言う事を聞かせる為に叱責や暴力によりコントロールをされてきた経験が、彼にとっては当たり前の手法として習得してきたものでした。また、自分に自信がないからこそ虚勢を張り自分を強く見せ、周囲を力で支配することで、あたかも自分が慕われているかのような安心感を求める、自分の居場所を作ろうとする。」と考察できました。

彼の言動は健康的ではなく、周囲からは敬遠をされる要因ともなってしまいます。そのまま社会生活を送ることも大きな不安もある。社会適応できる力を備えていく

ことも自立支援の1つであり、社会に出る前に少しでも改善につなげていくことが必要でした。

単純に「それはダメなこと」と伝えても、健康的な育ちを重ねていない子どもには響きにくく、習慣化されたものは簡単には改善には至りません。毎日の生活の中で、彼の頑張りを認め、間違っていない当たり前の行動を評価すること。暴力など支配による関係性は表面的でもろいものであり、そのような方法でなくとも関係性は作っていいことを重ねて伝え続けた。間違った行為を修正しようと声を掛ければ「うるせえ。」など攻撃的な反応を受け止めなければならない事、年少児にその攻撃が向けば、年少児を守り切れなかったこと、攻撃を受けた年少児が後にその経験値から施設内での連鎖の心配など職員の疲労感も大きくありました。中学生、高校生になってくると、彼の持ち合わせていた行動は先輩からは「調子に乗っている奴がいる」と目をつけられてしまう要因でもあり、その環境も作用し、自信のない彼は自己防衛の意味でも少しずつコントロールが出来るようになってきました。結果として、高校という外のコミュニティでの行動は落ち着き、施設内でも年少児との関りに少し課題は残ったが、当初に比べれば大きな成長をしたと評価ができるまでとなりました。彼は高校卒業後、自分が小学校にいた頃に丁寧で熱心に対応してくれた教員に感謝と憧れを抱き、子どもと関わる仕事に就きたいと思い、山梨学院短期大学の保育科へ進学。私の心配をよそに、卒業後は保育士として勤務し転職をする事もなく10年目を迎えています。

また、女の子にも同じように、自己肯定観の低さと同時に承認欲求も強くあり、インターネット上で知り合った男性からの「可愛い、大好き」という言葉に居心地の良さを感じてしまい、裸の画像を送ることを求められたり、肌の温もりに心地良さを感じ簡単に性行為に至ってしまったケースもありました。

施設生活という守られた中での失敗経験を、社会生活に適応できる為の糧とすることも必要ですが、施設で過ごせる時間は制度上限られており、以前は年齢は18歳(高校卒業)まででした。施設で18歳を迎えた時に親元に帰らない、帰れない子どもが多く自立へ向けた支援も課題です。以前は、大学等へ進学となるとアパートを借りる家賃や生活費、学費も自己負担となり、日本学生支援機構の奨学金を最大限利用し、尚且つアルバイトをしないと学校と生活の維持は難しく、両立が難しく途中で退学する子どもが多くありました。

18歳で社会に出ることで、ケアリーバーの社会での生活維持が難しいことも課題として取り上げられ、現在では措置制度は20歳までは可能となり、現在、施設から専門学校に通う子どももおります。ただし、学校に掛かる費用(授業料、定期、教科書、PC)は全て自己負担となります。数年前より日本学生支援機構奨学金には、

所得に応じた減免制度や給付型奨学金の利用が可能となり、以前に比べれば大きな自己負担はなく進学することも可能になりました。

家庭で暮らす子ども達の多くは、大学等に当たり前に自宅から通学をする子どもがいます。親からの支援により経済的な負担も少なく温かい食事が提供され、何よりも支えてくれる家族の存在のある安全基地があることが、社会に出て新たな環境でも頑張ることが出来る要因ではないかと考えています。子どもが自ら望んで施設に来るケースは少なく、長い施設生活を余儀なくされる中で、施設が安全で安心できる場所、1人でも信頼できる大人を多く作り集立っていくことで、何かあった時に帰ってこれる場所となることを目指しています。

また、冒頭にお礼を差し上げた、「自分で買い物体験事業」のような機会は、経済的な面での支援だけではなく、社会性を養う機会となること、そして何よりも自分達を応援してくれる大人が沢山いること、支えてくれる人が社会にも必ずいることを感じられる貴重な機会でもあり、本当にありがたく思います。

本日は、皆さまの前でお話をさせていただいたことに

より、少しでも児童養護施設で生活を送る子ども達の実情を知っていただく機会をいただけたこと、ありがたく思っています。

皆様を感じられたものは、間違いなく子ども達にとって良い方向へ活用がされるであろうと思ひ、参加をさせていただきました。ご多忙の所、皆さまの貴重なお時間を頂戴できたことにも改めて感謝を申し上げます。

◇【その他のプログラム】◇

* フィリピン Plaridel Luminary RC バナー紹介



依田、鶴田（郁）、土屋、細川、望月（瑠）各会員
吉原会長、塩澤・西野副会長、丹沢幹事、藤巻・
近藤・井上副幹事

①児童養護施設あいむ施設長、小名木建様、児童
養護施設くずはの森施設長、佐藤昇吾様、本日
の卓話をよろしくお願ひいたします。

ロータリアンの行動規範 (Rotarian Code of Conduct)

全会員には以下のことが求められる：

1) 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。

甲府南RCホームページ：<http://www.kofu-goudou-rc.gr.jp/minami/>
事務局：E-mail：kofu-minami@kofu-goudou-rc.jp